

第22号

発行所 大阪市史跡 龍溪禅師墓所
 霊亀山 九島禅院
 〒550 大阪市西区本町3丁目4-18
 ☎06-583-2725
 発行人 住職 奥田啓知(智證)

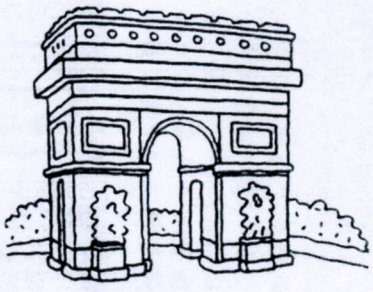
大馬鹿門に門句あり

ソクラテスを生んだかも？

「平成の大馬鹿門(へいせいのおおばかもん)」と書けば、ご存じの方もあると思います。マスコミでも話題になった仏教大学(京都市北区)正門の門柱をめぐる騒動のことです。香川県庵治町在住の彫刻家の空(そら)充秋さんが今年の三月、浄土宗系の仏教大学に御影石でできた門柱一对を寄贈されました。正門の両脇に建てられ五月七日に除幕式も済まされました。ところが、門柱の一つに作者が「平成の大馬鹿門」と刻字していたことから、大学当局が猛反発。「馬鹿」という字には宗教的観念が読み取れず、教育機関にはふさわしくない」と刻字の削除を求めたところ、作者の空さんも頑として譲らず、撤去されることになりました。空さんによると、「人間、馬鹿に徹して己を知るということもあるし、実ほど頭をたれる稲穂かなで、「たとえ学問をきわめて智者となっても阿弥陀仏を信じ、ひたすら己は無知愚鈍であることを自覚せよ」という法然上人の遺愚(げんぐ)によせ

て命名した」とのことでした。馬鹿の語源については諸説紛々ですが、この騒動の原因は、馬鹿と阿呆の地域差にあるように思われます。東京とは逆で、大阪では「阿呆」と言われてもあまり腹を立てません。しかし「馬鹿」と言われると、喧嘩になってしまいます。関西人の「馬鹿」は、相手に対する挑発と受け取られるからです。大学関係者は、作者の意を解さず「大馬鹿」の文字にとらわれて反発されたのでしょうか。確かに一般的には「馬鹿」とは、馬と鹿を間違えるような愚か者を意味します。その意味では、大学側の処置も共感できるものですが。ギリシャの哲学者ソクラテスはアテネの街頭で青年たちに問答をふきかけ、彼ら自身に無知を自覚させ、相携えて真の認識に到達しようと努めました。ソクラテスのモットーは「グノーティ・サウトン(汝自身を知れ!)」でした。この言葉はデルフォイの神殿の門に掲げられていた警句でした。「身の程を知れ!」という意味で「神殿の門

から先は神の聖域で、お前たち人間は、これから中では偉そうにするな、神を敬え」という意味でしたが、ソクラテスは「身の程」という言葉を文字通りに「自己自身」と読んだのでした。そして「自己自身を知れ!」と命をかけて青年たちに説いてまわったのでした。仏教でも「自灯明・法灯明」とお釈迦さまも説かれているように、世間の常識を捨てて、自分を価値の基準にしなさい、灯明となるべき「自己」を確立せよと同じことなのです。臨濟禅師も「一無位の真人」と説き、真実の自己をみつけなさいと修行僧を指導しています。今回の「平成の大馬鹿門」の文言も、デルフォイの神殿の門に掲げられた「グノーティ・サウトン(汝自身を知れ!)」のように、平成のソクラテスを育てたかもしれない。残念なことです。



大阪にオリンピックを!
 九条に中華街を!
 二十一世紀まであと三年!

第三回修養会ご報告

黄檗宗発祥寺院を拝塔

十一月十日(日)、第三回九島院修養会が、総勢四十六名参加のもと盛況のうちに催されました。あいにくの曇天でしたが、秋の一日をゆったりと過ごせました。

今回は、大阪近郊の高槻市の禅寺、それも当院ご開山龍溪禅師のゆかりの寺、普門寺と慶瑞寺、それに普茶料理をいただいた廣智寺を拝塔し、最後に摂津峡で紅葉を楽しみました。

摂津富田周辺が大型規制道路で、遠回りした為に普門寺には予定より十五分遅れで到着、隣接する三輪神社は折からの七五三のお参りでごった返していました。普門寺の方丈さまの話では、龍溪禅師の母方の実家が神官を勤める阿刀家で、富田の地に酒造業が起った後、酒の神さまである大和の大神(おおみわ)神社を龍溪禅師が勧請されたとのことでした。

参詣道を進むと普門寺の山門が現れる。門をくぐり登道(隠元禅師が作られた石畳)

つたいに歩を運び、方丈に上がり、一同、ご本尊の釈迦如来真前で般若心経をあげました。同寺は現在、臨濟宗妙心寺派に属していますが、承応三年(一六五四)隠元禅師が長崎に渡来されるや、時の普門寺住職龍溪禅師が、その徳を慕い、妙心寺管長にと運動をされましたが、志ならず、宇治に黄檗山萬福寺が建立(一六六一年)されるまでの間、隠元禅師を当寺に迎えましたその意味では、普門寺こそ私どもの黄檗宗発祥の寺院といえます。

現住の鷲見祖興和尚さまより、国の重要文化財に指定されている方丈でお話をうかがい、茶菓の接待をうけ一同、枯山水「観音補陀落山の庭」を散策、次の目的地慶瑞寺へ

慶瑞寺のご住職寺坂道雄老師が九州へ坐禅指導に巡教されていましたが、お弟子さんや日曜坐禅会の居士方にもてなしていただきました。慶瑞寺は、普門寺を退かれた龍溪禅師が、村人の要請によって

復興された禅寺で、九島院の本寺にあたります。また、当院で水定死された龍溪禅師の亡骸は同寺で茶毘に附されました

さっそく、禅師をお祀りしている開山堂で、禅師のみ霊と修養会参加各家のご先祖さまに対してご回向をさせて頂きました。もと慶瑞寺山

とよばれ、緑樹の繁る境内は、街の喧騒を忘れさせてくれます。開山堂に隣接して、茶の若木に周囲を囲まれた供養塔が二基。後水尾天皇とご生母の齒を埋納したものだそうです。

本堂と位牌堂にお参りの後、坊守さま方の丁寧な見送りを受けてバスへむかいました。廣智寺では、お馴染みの黄檗山萬松院奥田仁芳老師が導師

となつて、本堂にて心経回向落慶なつたばかりの超近代的な檀信徒会館を見学の後、客殿にて普茶料理の接待を受けました。ご住職中沢元重和尚は「む茶料理」といわれていましたが、無茶苦茶美味し



紅葉の摂津峡(中央観光バスを前に)

く日本料理のような繊細な味に驚きつつ、和尚さまのお話に一同、関心しました。畳も踏み抜く荒寺を上山いらい二十五年かけて二度も建て直されたご苦労は並大抵ではなかつたことでしょう。最後に摂津

大阪にオリピックを!

九条に中華街を!

二十一世紀まであと三年!

初夏の夕暮の中、初夜をむかひ、静かな慶瑞寺境内。正には龍燈の準備を急ぐ開山堂、右側がオリーブの樹



慶瑞寺開山堂（正面）大殿（左）

峽を散策して帰路につきま
した。以上、ご報告させてい
だきます。是非、来年の修養
会にもご参加下さい。来年は
後水尾上皇が造園された「修
学院離宮」、そして離宮内の
林丘寺（上皇の皇女である光
子内親王さまが開かれた門跡
寺院で、当院に後水尾法皇の
ご念持仏と法皇のお位牌を納
めておられます）そして、妙
心寺、龍安寺の拝塔を計画し
ています。是非、お誘い合わ
せご参加下さい。お一人でも
気詰まりなく楽しみめます。

年 忌 表 (平成9年)

回 忌	死 亡 年
1 周 忌	平 成 8 年
3 回 忌	平 成 7 年
7 回 忌	平 成 3 年
13 回 忌	昭 和 60 年
17 回 忌	昭 和 56 年
25 回 忌	昭 和 48 年
33 回 忌	昭 和 40 年
50 回 忌	昭 和 23 年

檀信徒の皆さまへ

○伊加田道義師当院の弟子に

長らく当院坐禅会に出席され
ていた伊加田道義氏（五十五歳）
が、平成八年七月一日付で出
家され沙弥禅士として黄檗宗の
僧籍に登録されました。得度式
は管長林文照猊下を得戒大導師
に仰ぎ、同二十七日に大本山萬
福寺大殿にて厳肅に執り行われ
在家出家としての第一歩を歩ま
れました。これからの益々のご
精進を祈っています。僧名は「
一道（いちどう）」と称します
今後宜しく願います。

○当院襖絵が美術雑誌に

出版社京都書院が、本堂襖絵
『長江萬里圖』『福建山水圖』
の作者劉新華先生を取り上げ、
『桂上登・花鳥画の世界』の題
で画集を出版することになりま
した。当院の襖絵は、先生の純
中国的な画風が日本ナイズされ
る過程のエポックとして掲載さ
れるそうです。劉新華先生が画
壇で脚光をあび、益々活躍さ
れることを祈りいたします。
尚、画集は年末か新年早々に発
売される予定とのことですよ。

※来年度の年忌表をかかげます。お
位牌や過去帳などでご確認下さい！尚
23回忌・27回忌・37回忌・43
回忌・47回忌などは禅宗や当地域で
は執行しません。

年忌法要は祥月命日前の土曜・祝日
曜にされることが多く、他家の法事と
重なり、ご希望に添えない事もありま
す。遅くとも1カ月以上前までに当院
まで、日取りと場所などのご希望のご
連絡をお願いします。

又、ご法事などに、龍燈会館（椅子
席）・本堂をご利用ください。精進落
としての料理・酒類なども準備できま
す

二十一世紀にはいる平成十二年は当院創建三百三十年です！

● 出家 — 禅宗三派の在家出家 —

出家という、かの悪名たかき「オーム真理教」でいちやく市民権を得た言葉ですが、梵語プラヴァジタの訳語で、大辞林には「家庭などとの関係を切り、世俗を離れて戒を受けて僧になること。また、その人」と定義されています。

京セラ会長稲盛和夫氏(65歳)が来年早々、仏門にはいは発表されました。仏門入りはかねてからの計画で檀家総代を努めている臨濟宗の禅寺の西学擔雪老師に相談し決心したそうです。「自分の哲學を完成させる」目的での発心ですが、すべての公職を退く決意とのことです。

ポール牧氏(55歳)といえば、「指パッチン」で一世を風靡したコメディアンですが、「私を支えてくれたり、いさめてくれた人が大勢が亡くなった。お礼の意味もこめ弔いたいし、私自身も仏の道を歩みたい」が発心の理由だそうです。氏は曹洞宗の禅寺で本年10月に得度式を行いました。

拙寺でも、当院の坐禅会にいられていた伊加田道義氏(55歳)が、本年8月に黄檗僧の小衲を師とし出家されました。本人の発心の理由は特に詳らかにされていませんが、三者とも、いずれも禅寺に縁を持ち出家されたことは事実です。

いずれも、僧の資格を得て、在家のまま仏道修行をされることと出家するを必要としない仏教では、家族を捨てて出家するを必要とした仏教は、在家でありながら悟りを開くというものです。特に「出家」を必要としますが、仏道修行のしよ。仏道とは「衆無願、煩悩無、誓願無、法門無、誓願成」と四句誓願をまわすように、まわす重要な衆生度が重要



お知らせ

◎のぼり奉納の募集

「南無観世音菩薩のぼり」を入れ替えます。一年間境内に掲げます。昨年同様お施主さんを募ります。為書きと施主名を墨書します。ご希望の方は寺務所まで、お声をかけてください。

一旗 金一千元

編集後記

▼先日当院第十九代末童和尚のご子孫で滋賀守山市在住の谷義博氏が来院されました。

▼同家の過去帳をみると、元文五年(一七四〇)の初代より連続とつながる家系には、同和尚の他にも、黄檗宗伊吹山松尾寺の住職を勤められた神龍和尚と二人の出家をだされています。

▼当院第十三代蘭州和尚も沢の鶴酒造の社主である西村家のご先祖で、同家

は墓参を欠かされません。

▼「一子出家すれば九族天に生ず」といいます。神仏を敬い先祖を供養する家は栄え続けていくことでしよう。

▼お釈迦さまの氏姓の名は、パーリー語で「ゴータマ」といい「最上の牛」という意味です。

▼平成九年は丑年です。「出家」しないうまでも、お釈迦さまの教えを学び、自らが仏となつて、世のため人々のために精進していきましょう。

墓地管理費のご納付をお願い致します。墓参の折、郵便為替でも結構です。

会 禅 統 宗 通 円

毎月 18日(観音命日) 午後 6時半～8時半

場所 当院本堂と坐禅堂
場 所 黄檗山萬松院奥田仁芳老師
坐 禅 指 導 龍 溪 禪 師「宗統録」
提 唱

ご案内

二十一世紀にはいる平成十二年は当院創建三百二十年です!